

松戸市総合計画第2次実施計画策定に伴う  
市民意識調査等実施結果  
(報告書)

～前期基本計画「施策展開の方向」に基づく指標の現状(値)～

平成14年2月

松 戸 市

## 目 次

<u>1 調査の概要</u>	
1 - 1 調査の目的	・・・ 1
1 - 2 調査の種類と方法	・・・ 1
1 - 3 調査の枠組み	・・・ 1
・ 前期基本計画「施策展開の方向」の「目的・指標」	
・ 調査項目	
1 - 4 回収状況等	・・・ 8
<u>2 市民意識調査の単純集計結果</u>	・・・ 11
<u>3 市民意識調査の回答者の特性</u>	・・・ 25
<u>4 市民意識調査に基づく「指標の現状（値）」</u>	
4 - 1 指標の現状（値）	
1）松戸に住み続けたいと思う人の割合	3 4
2）身の回りで人権が守られていると思っている人の割合	・・・ 3 6
3）性別による役割固定を支持しない人の割合	3 8
4）地域活動に参加している人の割合	・・・ 4 0
5）インターネットを利用している人の割合	4 2
6）生きがい感をもっている人の割合	・・・ 4 4
7）本人が健康であると思う人の割合	・・・ 4 6
8）日常生活に対するの安心感をもつ人の割合	4 8
9）文化・教育に魅力を感じて、いつまでも住み続けたいと思う人の割合	5 0
10）学習活動を行っている人の割合	・・・ 5 2
11）学習活動の成果を地域活動で活かしている人の割合	・・・ 5 4
12）スポーツを行っている人の割合	・・・ 5 6
13）外国籍市民と交流している人の割合	・・・ 5 8
14）国際紛争に対する関心を示す人の割合	・・・ 6 0
15）文化・芸術に親しむ人の割合	・・・ 6 2
16）安心やゆとりを感じている人の割合	・・・ 6 4
17）災害に対して自ら対策を講じている人の割合	・・・ 6 6
18）商品やサービス購入時に、トラブルに巻き込まれた人の割合	6 8
19）快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合	・・・ 7 0
20）（水道水に）満足している人の割合	・・・ 7 2
21）市役所・支所を不便と感じている人の割合	・・・ 7 4

4 - 2	松戸市に対する意見・要望（自由記載）		7 7
	・ 分類		
	・ 主な意見・要望		
5	<u>外国籍市民意識調査（日本語ルビ版・英語版）の単純集計結果</u>	.....	9 1
6	<u>市外在住者意識調査の単純集計結果</u>	.....	1 0 5
（添付資料）			
1	<u>市民意識調査票</u>	.....	1 1 1
2	<u>外国籍市民意識調査票（日本語ルビ版）</u>	.....	1 2 3
3	<u>外国籍市民意識調査票（英語版）</u>	.....	1 3 9
4	<u>市外在住者意識調査票</u>	.....	1 5 3

# 1 調査の概要

## 1 - 1 調査の目的

松戸市では、平成10年度(1998年度)より「松戸市総合計画」として「基本構想」「基本計画」「実施計画」の構成で計画行政を推進しています。

その後、平成12年度より「評価システム」を導入し、事業を目的別に体系化した「政策目的体系」や指標に基づき成果を検証する「評価調書」を作成し、公開しています。これは、行政活動の全貌を明らかにし、今まで以上に、市民にわかりやすく説明する試みです。

さらに、平成12年度に「第1次実施計画」の見直し(ローリング)を行うに際しても、評価システムの手法を活用し、平成13・14年度の事業の見直しを行いました。

(見直し結果一覧)

区分	継続	見直し	新規	終了	先送り	凍結	計
事業数	99	118	10	22	17	14	280

平成15年度から実施する第2次実施計画では、評価システムを活用し策定する予定ですが、まず、上位計画である前期基本計画の今後の方向性を明らかにするために「施策展開の方向」に「目的・指標」を設定しました。

今回の市民意識調査は、その指標の現状(値)を把握するために実施したものです。

## 1 - 2 調査の種類と方法

今回の調査は、従来の調査に加え、市内在住外国人の意見を把握すると共に、市外在住者からの意見を聴取するために対象者および調査方法を考慮し、次の区分で実施しました。

在住地	国籍	使用言語	対象件数	調査方法	調査名
松戸市内	日本国籍	日本語	3,000人	郵送	市民意識調査
	日本国籍以外	日本語ルビ・英語	不特定	ホームページ	公開意識調査
松戸市外		日本語	不特定	ホームページ	

それぞれの調査期間は、次のとおりです。

調査名	発送・公開日	〆切・閉鎖日	期間
市民意識調査	平成13年10月30日	平成13年11月13日	14日間
公開意識調査	平成13年11月29日	平成13年12月9日	11日間

## 1 - 3 調査の枠組み

調査の前提となる、前期基本計画「施策展開の方向」の「目的」「指標」および今回の調査対象項目は次のとおりです。

注釈1：目的は「市民と行政が役割分担を自覚し、協働して実現した状態」を表します

2：主な指標は、「目的の達成度を計るための尺度」を表します

節	項	内容	目的	主な指標	調査対象
1		連携型地域社会の形成	市民が互いを尊重し、住み続けたいと思うまちになる	松戸に住み続けたいと思う人の割合	
	1	人権を尊重する社会の実現	さまざまな人権侵害がなくなり、一人ひとりの個性や生き方がより尊重されるようになる	身の周りで人権が守られていると思っている人の割合	
	2	男女共同参画社会づくり	性別に係わらず、社会・家庭での役割が、今以上に選択できるようになる	性別による役割固定を支持しない人の割合	
	3	市民と行政のパートナーシップの強化	市民主体の地域づくりが活発になる	NPO法人の数	
				地域活動に参加している人の割合	
	4	情報提供の充実	市民が必要度に応じて、知りたい行政情報を得られるようになる	ホームページのアクセス件数	
5	IT社会の実現（新規追加）	IT技術が活用される地域社会になる	インターネットを利用している人の割合		
2		豊かな人生を支える福祉社会の実現	生涯を通して、心豊かに健やかに暮らせるようになる	健康寿命（「平均寿命」 - 「痴ほう・寝たきりの平均期間」）	
	1	多様な生きがい感のある環境づくり	生涯を通して、自分に合った社会参加ができ、生きがい感をもてるようになる	生きがい感をもっている人の割合	
	2	健康の維持・増進	生涯を通して、健康に良いと思う行動や身近な人の健康に配慮ができ、病気や障害をもつことになっても、自分に合った健康生活が送れるようになる	本人が健康であると思う人の割合	
	3	日常生活および緊急時の安全・安心性の向上	生涯を通して、必要な時に必要度に応じて十分な医療、介護、保護、支援などのサービスが受けられ、生活する上での安心感がもてるようになる	日常生活（心配事が起きた時を含む）に対するの安心感をもつ人の割合	
	4	福祉のための基盤整備	生涯を通して、必要な時に健康福祉施設サービスが必要度に応じて利用できるようになる	施設ニーズ充足率	

節	項	内容	目的	主な指標	調査対象
3		次代を育む文化・教育環境の創造	多くの市民が暮らしたいと思う文化や教育環境がある	文化・教育に魅力を感じて、いつまでも住み続けたいと思う人の割合	
	1	生涯学習の推進	より多くの人々が積極的に学習活動を行い、その成果を活かすようになる	学習活動を行っている人の割合	
				学習活動の成果を地域社会で活かしている人の割合	
	2	学校教育の推進	個々の発達段階に応じて児童生徒が基礎基本を習得するようになる	基礎基本習得の到達度	
	3	生涯にわたるスポーツ活動の支援	より多くの人々がスポーツに親しむようになる	スポーツを行っている人の割合	
				スポーツで市民の誇りを育てた競技者の数	
	4	国際化の推進と平和意識の高揚	外国籍市民が暮らしやすくなる	外国籍市民で暮らしに満足している人の割合	
				外国籍市民と交流している人の割合	
			すべての人が世界平和を望むようになる	国際紛争に対する関心を示す人の割合	
	5	青少年の健全育成	より多くの青少年が社会の一員であることを自覚して生活するようになる	青少年育成団体への小中学生の帰属率	
				非行少年数	
	6	多様な文化・芸術の創造	より多くの人々が文化・芸術に親しみ、自ら創造的な活動をするようになる	文化・芸術に親しむ人の割合	
市民が誇れる芸術文化活動をする人の数					
4		安全で快適な生活環境の実現	安心してゆとりのある暮らしができるようにする	安心やゆとりを感じている人の割合	
	1	良好な生活空間の実現	良好な生活空間に住むことができるようにする	資産価値（公示価格の増減率の近隣市比較）	
				緑被率（市域面積に占める緑地面積の割合）	
	2	人と自然が共生するまちづくり	緑や水にふれあえるようにする	BOD（生物化学的酸素要求量）	
3	リサイクル型の都市づくり	市民の生活に身近な環境負荷が少なくなる	廃棄物の最終処分量		
			環境基準達成率（大気・騒音）		

節	項	内容	目的	主な指標	調査対象
4	4	安全で安心な地域環境づくり	日常生活における火災・交通事故および地震等の災害が発生した時に被害を少なくする	火災による焼死者数 心肺停止患者の蘇生率 交通事故の発生件数 災害に対して自ら対策を講じている人の割合	
	5	自立をめざした消費者行政の推進	商品やサービスの購入時に、トラブルに巻き込まれることが少なくなる	商品やサービスの購入時に、トラブルに巻き込まれた人の割合	
5	魅力ある都市空間の形成と産業の振興		快適で便利な賑わいのあるまちに住むことができるようにする	快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合	
	1	都市環境の整備	地域ごとの特色を活かし、交流人口が増えるようにする	交流人口（「昼間人口」＋「観光客数」）	
	2	都市基盤の整備	公共交通を利用しやすくする	鉄道の混雑率	
			車の流れを良くする	渋滞箇所数	
			水害を少なくする	浸水箇所および面積	
			汚水が川に直接流れないようにする	下水道利用率（「下水道利用者数」÷「人口」）	
			安全な水をいつでも使えるようにする	（水道水に）満足している人の割合	
3	活力ある産業の振興	産業を維持・発展させる	商業の年間商品販売額 製造品出荷額等 農業粗生産額		
4	就労環境と就労機会の整備	安定した雇用が確保される共に、働きやすい職場になる	有効求人倍率 障害者法定雇用率を達成している企業の割合		
5	多様な近郊型観光の振興	観光客が多く訪れるようになる	主要観光スポットの観光客数		
6	都市経営の視点に立った行財政運営		地方分権に対応できる自己責任・自己決定能力を向上させ、行政の自立度を高める	自主財源比率（「自主財源」÷「歳入総額」×100）	
	1	効率的・効果的な施策を実現するシステムの形成	生産性の向上を図り、質の高い行政運営を推進する	経常収支比率（「経常経費充当一般財源」÷「経常一般財源総額」×100）	
	2	行政としての経営基盤の強化	多種多様な行政需要に応えることが可能であり、社会経済情勢の変化に柔軟に対応できる健全財政を維持・増進する	財政力指数（「基準財政収入額」÷「基準財政需要額」）	



節	項	内容	目的	主な指標	調査対象
6	3	広域行政への取り組み	近隣自治体との連携を強化する	連携して実施した業務数	
	4	計画行政の推進	市民に分かりやすい行政運営の中長期ビジョンと戦略を示し、それを推進する	リーディングプランの実現率（進捗状況）	
	5	庁舎および庁舎機能の整備充実	市役所・支所の利便性を向上させる	市役所・支所を不便と感じている人の割合	

目的：4 1

主な指標：5 5

調査項目：2 1

調査対象の「指標」を調べるために、意識調査用に設問化する必要があります。その際、回答者の立場を「個人」「地域」「社会」に3つに、回答者の意図を「態度（認知・評価・関心）」「行動」「意向」を5つに分類し、設問を作成しました。

なお、前期基本計画「施策展開の方向」の「目的」「指標」の設定並びに「指標」の設問化に当たっては、政策情報システム研究所の協力を得て、作成したものです。

設問化の方向は次のとおりです。

節	項	主な指標	立場	意図
1		松戸に住み続けたいと思う人の割合	個人	意向
	1	身の周りで人権が守られていると思っている人の割合	社会	態度（認知）
	2	性別による役割固定を支持しない人の割合	個人	態度（認知）
	3	地域活動に参加している人の割合	社会	行動
	5	インターネットを利用している人の割合	個人	行動
2	1	生きがい感をもっている人の割合	個人	態度（認知）
	2	本人が健康であると思う人の割合	個人	態度（認知）
	3	日常生活（心配事が起きた時を含む）に対するの安心感をもつ人の割合	個人	態度（認知）
3		文化・教育に魅力を感じて、いつまでも住み続けたいと思う人の割合	社会	態度（評価）
	1	学習活動を行っている人の割合	個人	行動
		学習活動の成果を地域社会で活かしている人の割合	個人	態度（認知）
	3	スポーツを行っている人の割合	個人	行動
	4	外国籍市民と交流している人の割合	個人	行動
		国際紛争に対する関心を示す人の割合	社会	態度（関心）
5	文化・芸術に親しむ人の割合	個人	行動	
4		安心やゆとりを感じている人の割合	地域	態度（評価）
	4	災害に対して自ら対策を講じている人の割合	個人	行動
	5	商品やサービスの購入時に、トラブルに巻き込まれた人の割合	個人	行動
5		快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合	地域	態度（評価）
	2	（水道水に）満足している人の割合	地域	態度（評価）
6	5	市役所・支所を不便と感じている人の割合	個人	意向

さらに、説明変数として属性（「基本的事項」「現在の指向」「行政への関心」）を付け加え、作成しました。

市民意識調査の枠組みは、次のようになります。



## 1 - 4 回収状況等

市民意識調査は、「日本国籍」「20歳以上」「平成13年9月末日現在在住」の条件により対象者(母数)を決定し、「年齢」「性別」「支所管区」別に無作為抽出しました。

詳細な抽出結果は、次のとおりです。

区分		本庁	常盤平	小金	小金原	六実	馬橋	新松戸	東部	矢切	計
20	男	38	25	12	8	7	11	20	7	7	135
	女	35	23	13	8	7	10	19	6	6	127
24	計	73	48	25	16	14	21	39	13	13	262
25	男	60	36	20	11	10	18	27	10	11	203
	女	48	31	15	10	9	14	23	9	11	170
29	計	108	67	35	21	19	32	50	19	22	373
30	男	59	37	19	11	10	17	26	11	12	202
	女	48	32	16	11	10	15	21	10	10	173
34	計	107	69	35	22	20	32	47	21	22	375
35	男	44	29	14	9	9	13	18	9	8	153
	女	35	25	12	7	10	10	17	8	6	130
39	計	79	54	26	16	19	23	35	17	14	283
40	男	33	23	11	6	9	10	16	7	6	121
	女	29	19	10	6	8	9	15	6	6	108
44	計	62	42	21	12	17	19	31	13	12	229
45	男	32	23	11	7	8	9	16	6	7	119
	女	29	22	10	8	8	8	17	6	6	114
49	計	61	45	21	15	16	17	33	12	13	233
50	男	42	30	14	10	10	12	23	9	9	159
	女	39	31	14	9	10	13	25	9	8	158
54	計	81	61	28	19	20	25	48	18	17	317
55	男	32	26	10	7	7	9	18	7	8	124
	女	34	27	10	10	7	9	17	7	7	128
59	計	66	53	20	17	14	18	35	14	15	252
60	男	31	24	10	9	7	9	14	6	6	116
	女	34	27	11	12	8	10	14	7	7	130
64	計	65	51	21	21	15	19	28	13	13	246
65	男	49	45	17	18	10	16	20	13	11	199
	女	60	51	20	19	12	18	23	15	13	231
	計	109	96	37	37	22	34	43	28	24	430
計	男	420	298	138	96	87	124	198	85	85	1,531
	女	391	288	131	100	89	116	191	83	80	1,469
	計	811	586	269	196	176	240	389	168	165	3,000

・調査期間

平成13年10月30日(火)から11月13日(火)の14日間

・調査方法

調査票を配布する前に、事前通知を郵送(平成13年10月10日)

本調査票の配布、回収は、郵送により実施

・回収状況

母数	363,326人
サンプル数	3,000人
有効回答数	1,612人
有効回収率	53.7%

なお、事前通知を発送した際に、回答拒否・不能などにより辞退した人が32人、本調査票発送後、転居先不明などにより7人が未着でした。

・単純集計結果の標本誤差(信頼度95%)

回答の比率(P) 回答数(n)	10%又は 90%前後	20%又は 80%前後	30%又は 70%前後	40%又は 60%前後	50%前後
1,612	± 1.5%	± 2.0%	± 2.3%	± 2.4%	± 2.5%
1,400	± 1.6%	± 2.1%	± 2.4%	± 2.6%	± 2.7%
1,200	± 1.7%	± 2.3%	± 2.6%	± 2.8%	± 2.9%
1,000	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.2%
800	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.5%	± 3.5%
600	± 2.4%	± 3.3%	± 3.7%	± 4.0%	± 4.1%
400	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
200	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
100	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%

< 比率の差の検定方法 >

$$b = 2 \times \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - p)}{n}}$$

b = 標本誤差・N = 母集団数・n = 回答者数・P = 回答の比率

< 表の見方 >

「ある設問の回答数が1,000人であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%である場合」その回答比率の誤差範囲は、最高でも±3.1%以内である。